



大切なボタンは しっかりついてますか

ボタンは、着用によって掛けたり外したり、また飾りボタンであっても擦れたり引っ張られたりして、ほとんどのボタンの簀糸は弱っているはずですから、洗浄中に脱落などの事故につながりがちです。大切なボタンは、クリーニングに出す前に状態を確認してください。できれば取り外してお出しただければ良いと思われま



今ではほとんどなくなりましたが、ドライクリーニングの溶剤で溶けてしまうスチロール樹脂製のボタンもあります。一般には、素材としては使用されないことになってはいますが、海外製品などにまれに見られます。これは、外観だけでは見分けられませんので困ります。

ボタンのデザインにも流行があって、ことにデザイン性の高いものや高級ブランドのものは、まったくと言っていいほど入手することができませんので、外してクリーニングに依頼するなどの配慮をしてください。

絵画の中の洗濯風景

アイロンを掛ける人



リック・ウォータース (1912年)

リック・ウォータース (1882~1916年) は、『フランダースの犬』でも知られるベルギーのアントワープ出身の画家です。1905年にモデルをしていたネルと結婚し、ネルをモデルに多くの作品を描きました。この『アイロンをかける人 (De strijkster)』も、彼の妻ネルの姿だとされています。

妻を愛し続けた画家として知られ、この絵画も「快適な家庭環境にいる妻が、テーブルの上にかがみ、青い衣服にアイロンをかけている姿を描いている。彼女は白いシャツの上にピンクのドレスを着て、優しく画家を見上げている。」と作家クリストフ・ヴェルビーストが記しています。画家は、妻をモデルとする多くの作品を残しており、アイロンをかけた本を読んだり、窓に座ったりした姿を描きました。見た目は家庭的かもしれませんが、その色の使い方は大胆で暴力的であるとも評されていますが、この異質な対立がウォータースの作品の特徴となっています。

HomeDry News

ホームドライニュース No.111



- 絵画の中の洗濯風景：
アイロンを掛ける人
- なるほど納得！衣生活の知恵：
大切なボタンはしっかりついてますか
- 繊維と服飾の物語：
徳川家康の生母於大の方が三河木綿を広めました

繊維と服飾の物語



徳川家康の生母於大の方が 三河木綿を広めました

●嫁入り道具に綿の種

NHK 大河ドラマ『どうする家康』で松嶋菜々子さんが演じる「於大の方」は、主人公徳川家康に「乱世の厳しさを教えた戦国の母」として登場しています。



於大の方の肖像（出典：wikipedia）

その於大の方は、今では全国に知られる三河木綿を広めた人でもありました。山岡荘八の小説『徳川

家康』の第一巻『女性の歌』の章に、於大の方の行いがこのように書かれています『三河では綿は以前福地村の天竹に天竺人が漂着して来て一度ひろめ、わざわざ棉神にまつられるほどであったが、その後いつか種子をなくしてほろんでいる。その綿の種子を携えて来て民百姓にこれをひろめ松平家の徳を永くのこそうという。』



綿の種

於大の方は、家康の父松平広忠に嫁いですぐに綿の栽培を手がけ、家臣や農民にも指導して綿花事業を拡げ、領内の民の生活を豊かにしようとしたことで、民に慕われるようになりました。

しかし、実家であった水野家が、当時敵方であった織田信秀についたことで余儀なく離縁され、久松俊勝と再婚しました。久松氏の居城坂部城址の本丸跡には、於大の方がみずから栽培に励んだと伝わる綿の畑が再現されているということです。

●綿栽培が普及したのは室町時代

日本に綿が伝来した伝説として、奈良時代の延暦18年（799年）に、現在の愛知県西尾市に漂着したインド（崑崙）人の少年が綿の種をもたらしたということが、歴史書『日本後記』に記されています。そして、この種によって栽培を試みたのですが、すべて枯れてしまい失敗したということです。



綿花の祖として崑崙人を祭る西尾市天竹神社のお札
綿花の栽培が、日本で始まったのは、朝鮮半島を経由して室町時代にひろまったのだとされています。まさに、この日本初の綿花栽培事業を広めたのが、徳川家康の母於大の方だったのかもしれませんが、家康に乱世の厳しさを教えたばかりではなく、領民を豊かにしようという事業を起こした素晴らしい女性だったようです。国産綿の記述がみられる最初の文献は、1510年（永正7年）の『永正年中記』というもので、「三河木綿」と記されています。

江戸時代に入って、やっと綿花産業は全国に広まっていったということですから、ほんの400年ほど前までは、一般庶民の生活には、綿素材の下着や綿布団は無かったということになります。戦国時代の初期まで、ガサガサした肌触りで、清涼感があっても保温性に乏しい苧麻などの麻素材の衣服と寝具で人々は生活していたわけで、夜など相当に寒い思いをしたのではないのでしょうか。まず、江戸時代以前の庶民のきものに綿が使われているような時代劇は、あり得ないということになるでしょう。